



## 参考資料

愛知目標（愛知ターゲット） .....	資料 - 2
国・県指定・選定文化財一覧.....	資料 - 3
とっとりらしい保全と活用の事例.....	資料 - 5
民間活動団体の取り組み .....	資料 - 5
企業の取り組み.....	資料 - 16
市町村の取り組み .....	資料 - 19
鳥取県の取り組み .....	資料 - 21
県内施設 .....	資料 - 25
策定に係る経過や検討会等 .....	資料 - 31

## 愛知目標（愛知ターゲット）

生物多様性の損失を止めるために、2010(H22)年 10 月に愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第 10 回締約国会議 COP10 で生物多様性条約全体の取組を進めるための枠組みとして採択された目標で、5 つの戦略目標、20 の個別目標から構成されています。

また目標の達成に向け、わが国の目標として短期(2020 年まで)と中長期(2050 年まで)の目標を定めています。

愛知目標の 2020 年目標 物多様性の損失を止めるために効果的かつ緊急な行動を実施する

愛知目標の 2050 年目標 Living in harmony with nature”自然と共生する世界・・・

生物多様性が評価され、保全され、回復され、そして賢明に利用され、そのことによって生態系サービスが保持され、健全な地球が維持され、すべての人々に不可欠な恩恵が与えられる

### ◆ 愛知目標の 5 つの戦略目標

戦略目標 A	各政府と各社会において生物多様性を主流化することにより、生物多様性の損失の根本原因に対処する
戦略目標 B	生物多様性への直接的な圧力を減少させ、持続可能な利用を促進する
戦略目標 C	生態系、種及び遺伝子の多様性を保護することにより、生物多様性の状況を改善する
戦略目標 D	生物多様性及び生態系サービスから得られるすべての人のための恩恵を強化する
戦略目標 E	参加型計画立案、知識管理及び能力構築を通じて実施を強化する

### ◆ 愛知目標の 20 の個別目標

目標 1	人々が生物多様性の価値と行動を認識する
目標 2	生物多様性の価値が国と地方の計画などに統合され、適切な場合に国家勘定、報告制度に組み込まれる
目標 3	生物多様性に有害な補助金を含む奨励措置が廃止、又は改革され、正の奨励措置が策定・提供される
目標 4	すべての関係者が持続可能な生産・消費のための計画を実施する
目標 5	森林を含む自然生息地の損失が少なくとも半減、可能な場合にはゼロに近づき、劣化・分断が顕著に減少する
目標 6	水産資源が持続的に漁獲される
目標 7	農業・養殖業・林業が持続的に管理される
目標 8	汚染が有害でない水準まで抑えられる
目標 9	侵略的な外来種が制御され、根絶される
目標 10	サンゴ礁など気候変動や海洋酸性化に影響を受ける脆弱な生態系への悪影響を最小化する
目標 11	陸域の 17%、海域の 10%が保護地などにより保全される
目標 12	絶滅危惧種の絶滅・減少が防止される
目標 13	作物・家畜の遺伝子の多様性が維持され、損失が最小化される
目標 14	自然の恵みが提供され、回復・保全される
目標 15	劣化した生態系の少なくとも 15%以上の回復を通じ、気候変動の緩和と適応に貢献する
目標 16	ABS（遺伝資源アクセスと利益配分）に関する名古屋議定書が施行、運用される
目標 17	締結国が効果的で参加型の国家戦略を策定し、実施する
目標 18	伝統的知識が尊重され、主流化される
目標 19	生物多様性に関連する知識・科学技術が改善される
目標 20	戦略計画の効果的な実施のための資金資源が現在のレベルから顕著に増加する

## 国・県指定・選定文化財一覧（地質・動植物・農林業等に関するもの）

### ◆ 国指定・選定等文化財一覧

指定種別	分類	文化財名称	所在地 [寄託先]	指定年月日
名勝	峡谷・溪流	小鹿溪	東伯郡三朝町	昭 12.12.8
名勝及び史跡	山岳仏教遺跡	三徳山	東伯郡三朝町	昭 9.7.7 平 30.2.13 追加指定 平 31.2.26 追加指定
名勝及び天然記念物	海浜・海食	浦富海岸	岩美郡岩美町	昭 3.3.27
特別天然記念物	植物	大山のダイセンキャラボク純林	西伯郡大山町	昭 27.3.29
特別天然記念物	動物	オオサンショウウオ	地域定めず	昭 27.3.29
天然記念物	植物	ハマナス自生南限地帯	鳥取市、西伯郡大山町	大 11.3.8
天然記念物	植物	倉田八幡宮社叢	鳥取市	昭 9.5.1
天然記念物	動物	キマダラルリツバメチョウ生息地	鳥取市	昭 9.5.1
天然記念物	植物	大野見宿禰命神社社叢	鳥取市	昭 9.8.9
天然記念物	植物	白兔神社社叢	鳥取市	昭 12.12.8
天然記念物	植物	松上神社のサカキ樹林	鳥取市	昭 19.3.7
天然記念物	地質	鳥取砂丘	鳥取市	昭 30.2.3
天然記念物	植物	波波伎神社社叢	倉吉市	昭 9.5.1
天然記念物	植物	唐川のカキツバタ群落	岩美郡岩美町	昭 19.3.7
天然記念物	植物	伯耆の大シイ	東伯郡琴浦町	昭 12.4.17
天然記念物	植物	船通山のイチイ	日野郡日南町	昭 32.7.27
天然記念物	動物	柴犬	地域定めず	昭 11.12.16
天然記念物	動物	イヌワシ	地域定めず	昭 40.5.12
天然記念物	動物	マガン	地域定めず	昭 46.6.28
天然記念物	動物	ヒシクイ	地域定めず	昭 46.6.28
天然記念物	動物	ヤマネ	地域定めず	昭 50.6.26
天然記念物	動物	オジロワシ	地域定めず	昭 45.1.23
重要文化的景観	文化的景観	智頭の林業景観	八頭郡智頭町内	平 30.2.13

### ◆ 県指定・選定文化財一覧

指定種別	分類	文化財名称	所在地 [寄託先]	指定年月日
名勝	溪流	三滝溪	鳥取市河原町	昭 31.2.3
天然記念物	植物	矢矯神社社叢	鳥取市	昭 31.3.6
天然記念物	地質鉱物	扇ノ山の火山弾	鳥取県立博物館	昭 55.3.4
天然記念物	地質鉱物	ナウマンゾウ牙 温泉津沖日本海底産	鳥取県立博物館	昭 55.3.4
天然記念物	植物	意上奴神社社叢	鳥取市	昭 59.2.21
天然記念物	植物	桂見の「二十世紀」ナシ親木	鳥取市	昭 60.2.22
天然記念物	地質鉱物	ナウマンゾウ牙 萩沖日本海底産	鳥取県立博物館	昭 62.4.14
天然記念物	植物	高岡神社社叢	鳥取市国府町	昭 34.6.5
天然記念物	植物	菅野ミズゴケ湿原	鳥取市国府町	昭 42.12.12
天然記念物	植物	坂谷神社社叢	鳥取市国府町	昭 58.9.27
天然記念物	植物	弓河内の大シダレザクラ	鳥取市河原町	昭 30.9.6
天然記念物	植物	落河内の大キリシマ	鳥取市河原町	昭 32.2.6
天然記念物	植物	長瀬の大シダレザクラ	鳥取市河原町	昭 34.6.5

指定種別	分類	文化財名称	所在地 [寄託先]	指定年月日
天然記念物	植物	落河内のカツラ	鳥取市河原町	昭 48.3.30
天然記念物	植物	犬山神社社叢	鳥取市用瀬町	昭 60.2.22
天然記念物	植物	田岡神社のツバキ樹林	鳥取市佐治町	昭 48.3.30
天然記念物	地質鉱物	辰巳峠の植物化石産出層	鳥取市佐治町	平 14.12.20
天然記念物	地質鉱物	鹿野地震断層の痕跡	鳥取市鹿野町	平 16.11.9
天然記念物	植物	相屋神社社叢	鳥取市青谷町	昭 58.9.27
天然記念物	植物	大日寺の大イチョウ	倉吉市	昭 31.3.6
天然記念物	植物	関金のシイ	倉吉市関金町	昭 48.3.30
天然記念物	植物	粟島神社社叢	米子市	昭 57.4.9
天然記念物	植物	清徳寺の巨樹名木群	八頭郡八頭町	昭 31.3.6
天然記念物	植物	西御門の大イチョウ	八頭郡八頭町	昭 45.2.20
天然記念物	植物	福本のオハツキイチョウ	八頭郡八頭町	昭 45.2.20
天然記念物	植物	中江の一本スギ	八頭郡若桜町	昭 48.3.30
天然記念物	植物	若桜神社社叢	八頭郡若桜町	昭 57.4.9
天然記念物	植物	豊乗寺のスギ	八頭郡智頭町	昭 48.3.30
天然記念物	植物	むし井神社社叢	八頭郡智頭町	昭 61.12.2
天然記念物	植物	倉谷のザゼンソウ湿原	八頭郡智頭町	平 16.4.30
天然記念物	植物	花倉山のヒノキ・ホンシャクナゲ群落	東伯郡三朝町	昭 39.3.3
天然記念物	植物	福本のツバキ	東伯郡三朝町	昭 48.3.30
天然記念物	植物	転法輪寺の大イチョウ	東伯郡琴浦町	昭 31.5.30
天然記念物	植物	琴浦町別宮の大イヌグス	東伯郡琴浦町	昭 31.5.30
天然記念物	植物	古布庄の大スギ	東伯郡琴浦町	昭 32.12.25
天然記念物	植物	籠津のハマヒサカキ群落	東伯郡琴浦町	昭 48.3.30
天然記念物	植物	マテバシイの北限地帯(智光寺の樹叢)	東伯郡琴浦町	平 1.4.18
天然記念物	植物	長田神社社叢	西伯郡南部町	昭 36.2.3
天然記念物	植物	佐伯氏のクロガネモチ	西伯郡南部町	昭 36.2.3
天然記念物	植物	金華山熊野神社社叢	西伯郡南部町	昭 57.4.9
天然記念物	植物	長寿寺・落合神社の社叢	西伯郡南部町	昭 60.6.25
天然記念物	植物	解脱寺のモミ並木	日野郡日南町	昭 34.6.5
天然記念物	植物	上石見のオハツキ・タイコイチョウ	日野郡日南町	昭 45.2.20
天然記念物	植物	楽楽福神社社叢	日野郡日南町	昭 60.2.22
天然記念物	植物	神戸上のハンノキ沼沢林	日野郡日南町	平 12.3.28
天然記念物	植物	聖神社社叢	日野郡日野町	昭 57.4.9
天然記念物	植物	根雨神社社叢	日野郡日野町	昭 59.2.21
天然記念物	動物	荒神原のオオサンショウウオ生息地	日野郡日野町	昭 61.12.2
天然記念物	植物	武庫の七色ガシ	日野郡江府町	昭 48.3.30
天然記念物	植物	熊野神社社叢	日野郡江府町	昭 48.3.30
天然記念物	植物	下蚊屋明神のサクラ	日野郡江府町	昭 48.3.30
天然記念物	植物	洲河崎のカツラ	日野郡江府町	平 1.4.18
天然記念物	地質鉱物	かまこしき溪谷の侵食地形	日野郡江府町	平 11.6.29
天然記念物	地質鉱物	和奈見と塩上の枕状溶岩	鳥取市河原町、八頭郡八頭町	平 22.5.14
天然記念物	地質鉱物	赤波川溪谷のおう穴群	鳥取市用瀬町	平 25.9.20
天然記念物	植物	氷ノ山のキャラボク群落	八頭郡若桜町	平 27.1.23
天然記念物	地質鉱物	多里層ノジュール列	日野郡日南町	平 29.10.10

## とっとりらしい保全と活用の事例

生物多様性に関わる保全活動や、経済活動、地域活性化など、鳥取の豊かな生物多様性を保全しながら活用している事例を紹介します。

### 民間活動団体の取り組み

	団体名	活動エリア	設立年	活動人数※	問い合わせ先	理解する・残守する	残守する・活用する	活用する・学ぶ	学ぶ・参加する	つなげる
1	鳥取昆虫同好会	県全域	1978年(S53)	30						
2	NPO 法人 日本野鳥の会鳥取県支部	県全域	1992年(H4)	200	(URL) <a href="http://www.toritorihp.or.jp/">http://www.toritorihp.or.jp/</a>					
3	自然観察指導員 鳥取連絡会	県全域	2003年(H15)	100	(e-mail)HQH01316@nifty.ne.jp (清末)					
4	自然に親しむ会	県東部	1961年(S36)	30	(e-mail)hotarunohikari@wave.plala.or.jp					
5	余戸地区ウスイロヒョウモンモドキ保護の会	鳥取市 佐治町	2004年(H16)	23						
6	氷ノ山ネイチャークラブ	若桜町	2019年(H31)	10						
7	天神川の魚を守る会	県中部	2012年(H24)	28						
8	東郷池メダカの会	県中部	2001年(H13)	50	(TEL)0858-32-2189 (東郷湖羽合臨海公園管理事務所内)					
9	三朝温泉かじか蛙保存研究会	三朝町	1979年(S54)	27	(TEL)0858-43-0484 (三朝郵便局内)					
10	希少野生植物保護の会 (略称：RD)	県西部	2002年(H14)	23						
11	NPO 法人 未来守りネットワーク	県西部	2004年(H16)	50	(TEL)0859-47-4330 (平日 10:00～15:00 水曜定休日)					
12	もりまきフィールドネットワーク	南部町	1996年(H8)	4	(URL) <a href="https://ameblo.jp/morimakin/">https://ameblo.jp/morimakin/</a> (南部町のK原さん第2部屋)					
13	とっとり・なんぶ手自然ネットワーク(サトノテ)	南部町	2009年(H21)	10	(URL) <a href="http://www.town.nanbu.tottori.jp/satonote/">http://www.town.nanbu.tottori.jp/satonote/</a>					
14	NPO 法人 なんぶ里山デザイン機構	南部町	2016年(H28)	37	(e-mail)info@nanbu-satoyama.jp					
15	なんぶハンザキ調査隊	南部町	2019年(R1)	10	team.nanbu.hanzaki1221@gmail.com					
16	福栄さくらそうを守る会	日南町	2004年(H16)	12	(TEL)0859-83-0454 (福栄振興センター)					
17	多里はんざけを守る会	日南町	2010年(H22)	25	(e-mail)skn0500@town.nichinan.lg.jp (多里地域振興センター内)					
18	山上ヒメボタル保護の会	日南町	2004年(H16)	80						
19	奥大山江府町ホタルの会	江府町	2016年(H28)	22	(TEL)0859-74-0212 (日野町公民館)					

※活動人数は、2020年2月現在、(約〇〇名)を含む。

## 1. 鳥取昆虫同好会

鳥取の昆虫についての調査・研究を中心に活動し、機関誌「ゆらぎあ」でその報告をしています。

倉吉博物館と協力した自然観察会や夏休み自然展示会の開催、鳥取県希少野生動植物の保護管理事業計画に基づく調査保護活動を実施しています。  
○機関紙『ゆらぎあ』の発行（年1回発行 現在 37号）



会員による昆虫調査の結果をフルカラーで発表しています。近年の研究成果では、鳥取には身近に素晴らしい自然があり、多くの注目すべき昆虫が生息することが明らかになりました。まだまだ新事実が出てくるのが期待されます。会誌は、鳥取県立博物館、鳥取県立図書館、倉吉博物館、琴浦町立図書館で閲覧できます。また、氷ノ山響の森や米子水鳥公園などの施設にも寄贈しています。

### ○倉吉博物館との協力

倉吉博物館の企画協力として、昆虫観察会（年1回）、夏休み自然博物館（昆虫標本を中心に昆虫生態写真を展示）を開催しています。標本展示は地元の昆虫や世界各地の昆虫を展示し、普段目にすることができない昆虫に驚きを示す市民も多くみられます。

### ○コガタノゲンゴロウの生息調査

鳥取県希少野生動植物コガタノゲンゴロウの生息調査を、主に6月から10月にかけてため池等で実施しています。近年、次第に個体数が増加、安定の傾向にあります。

## 2. NPO 法人日本野鳥の会鳥取県支部

野鳥や自然とのふれあいを楽しみ、人と自然が共存できる社会を目指して活動しています。

探鳥会（野鳥観察会）、希少動植物の保護、野鳥生息状況調査、環境教育など、（公財）日本野鳥の会や関係団体及び地方公共団体等と協働して活動しています。

### ○探鳥会の開催（毎月開催 鳥取県内 東中西部）

野鳥を楽しむことから始め、自然環境を知り、保護する活動に取り組んでいます。

また、視覚障がいのある方とバードリスニングを行うなど、バリアフリー探鳥会にも取り組んでいます。

### ○ブッポウソウとコアジサシの保護と復元

県の希少野生動植物保護管理事業計画に基づき保護活動をしています。

ブッポウソウ：電柱等への巣箱架け コアジサシ：天神川河口での繁殖コロニーの復元

### ○子どもたちの環境教育の支援

鳥取市の小学校の総合学習への講師派遣、米子水鳥公園の「子どもラムサールクラブ」のサポート、米子市児童文化センターでバードウォッチングクラブを開催しています。



### 3. 自然観察指導員 鳥取連絡会

日本自然保護協会（NACS-J）に登録している自然観察指導員と、趣旨に賛同し自然観察指導員になろうとする準会員で構成しています。

Conservation（保全）の立場で、自然を守り、よりよくして次世代につなげることを目標として活動しています。中国5県にそれぞれ団体があり、各県を会場に持ち回りで交流会を開いています。

#### ○定例自然観察会の実施（3ヶ月毎開催）

米子城跡をフィールドに一般の参加者も加えて、五感を使った観察会を実施しています。実践を繰り返すことで、観察会指導者としての研鑽を積む機会としています。

#### ○自然観察会の実施（毎月開催 鳥取県内）

自然度の高い場所だけでなく、街中の自然や自然と関わりのある文化や歴史も対象に観察会を行い、地域の自然の特徴や直面する課題を学ぶ機会としています。実施後、会報紙『あまた』で各観察会の情報を共有しています。

#### ○自然観察指導員講習会の共同開催（4年に1回程度）

NACS-Jとの共同開催で、生物多様性や生態系サービス、SDGsなど、日本の自然保護の最前線の情報が盛り込まれたカリキュラムにより自然観察指導員を育成しています。過去に5回の開催で、各回40～60名が巣立っています。



### 4. 自然に親しむ会

昭和36年に設立し、現在30人の会員で活動を行っています。活動地区は県東部が主で、鳥取県の自然を探勝し、生物多様性や動物のファウナ（動物相、地域内の全動物種）と植物のフロラ（植物相、地域内の全植物種）、また、山地から平地・海中に至る環境について、それぞれの関連性を観察しています。加えて、下記の会報等を定期的に刊行しています。



#### ○『自然に親しむ会報』（月1回発行）

会報は10～26ページのオールカラーで、会員が活動中に目にして感じた疑問点や学習したことをまとめ、相互の研究に活用しています。

#### ○『自然観察旅行紀行文集』（年1回発行 現在18冊刊行）

県外の自然に恵まれた場所を旅行し、参加者全員の寄稿によりオールカラーで110ページ前後の自然観察紀行を作り、会員のほか、県立図書館にも納めています。

また、鳥取自然保護の会、（公財）日本自然保護協会との連携した活動も実施しています。

## 5. 余戸地区ウスイロヒョウモンモドキ保護の会

鳥取市佐治町三原台に生息するウスイロヒョウモンモドキを保護するための、県が定める希少野生動植物の保護管理事業計画に基づく有志による活動です。

### ○幼虫の食草生育地の保全活動（8月・10月）

ウスイロヒョウモンモドキの幼虫の食草（オミナエシ）、吸蜜草（オカトラノウ・カノコソウ・アザミ、他）を増やすために、ススキの刈り払い撤去を実施しています。

### ○幼虫の食草オミナエシ（女郎花）の栽培（平成30年度～）

三原台地で採取したオミナエシの種子を麓の畑で栽培し、生育後に三原台地に移植する活動を行っています。

### ○鹿による食草等の食害防止の為、鹿侵入防止ネットの設置（春設置・秋撤去）

### ○他の保護団体・行政等との連絡調整会議への参加

保護活動の事例発表や、今後の取り組みに関する意見交換を行っています。

### ○「先進地視察研修」の実施（年1回程度開催）

会員の親睦と保護活動に取り組む意識を高めるため、先進地視察研修を実施しています。



## 6. 氷ノ山ネイチャークラブ

氷ノ山を中心にして、希少植物の保護活動や年間を通し各種団体の要望により自然探訪のガイド等の活動をしています。

### ○コキンバイの保護活動（年8回実施）

県が定める希少野生動植物の保護管理事業計画に沿って、氷ノ山に自生する希少野生植物コキンバイについて、調査や保護・繁殖を目的にしてモニタリングや巡視などを実施しています。

### ○氷ノ山登山や雪山スノーシューのガイド

春から秋にかけて、山開き・学校行事・団体・個人などの依頼により登山ガイドをします。また冬はスノーシューを履いて、動物の足跡や樹木の冬芽の観察などの雪上観察を、合わせて年間10回程度活動しています。

### ○野外観察のガイド

イベント・団体・グループなどの依頼で動植物や地形などについて、現地の案内や自然観察などの説明会を年間数回しています。



## 7. 天神川の魚を守る会

鳥取県中部に位置する天神川水系を中心とした在来のイワナやヤマメの保全、増殖に関する活動などを行っています。天神川水系を中心としたごく一部の水域には、在来のイワナやヤマメが生息していることが分かったため、これらの個体群の保全をするため、平成24年から保全活動を継続的に行っています。さらに自然環境に関する学習や啓発活動もあわせて行っています。



○在来のイワナ、ヤマメの人工産卵場と稚魚生息場所の造成

毎年10月～11月に、産卵環境や稚魚の成育環境向上のための造成を行っています。造成は、天神川漁業協同組合や釣り人等と連携しながら行っています。

○在来のイワナ、ヤマメの発眼卵発掘調査

毎年12月～1月に、発眼卵を発掘し、産卵状況や孵化状況を調査しています。

○看板の設置やステッカー配布

地域の貴重な資源を守りながら釣りを楽しめるよう、啓発看板を設置しています。天神川の自然を守る啓発活動として、ステッカーを配布しています。

○自然環境に対する現状把握と啓発活動

地域の子どもたちや保護者等とともに、天神川周辺の生き物調査をしています。地域の自然環境の現状把握や自然とのかかわり方を自然の中で学習しています。

## 8. 東郷池メダカの会

東郷湖羽合臨海公園のあやめ池公園内「メダカ遊園池」周辺での清掃・草刈り等による環境美化と、メダカなど生き物の保護育成とヨシなど水生植物の再生を通じた自然環境に係る諸活動を行いながら、持続可能な環境学習の啓発を行っています。湯梨浜中学校科学部との共同活動や、町内のこども園や小学校の学習支援など、次世代育成や地域への啓発活動に重点をおいて活動しています。



○環境学習活動

- ・おさかな教室：東郷小学校周辺で魚をつかまえ、観察し、放流する学習
- ・メダカ池生態調査：メダカ池の生物の実態調査及び環境を学習
- ・ヨシ（葦）の再生活動：ヨシを増やし水質浄化を図る
- ・地域のこども園や小学校でのゲストティーチャー

○環境美化活動：あやめ池公園清掃、アダプト活動（年5回）

○ストップ・ジャンボタニシ（スクリミンゴカイー特定外来生物）

東郷池周辺の水路や水田で増殖中のジャンボタニシ（スクリミンゴガイ）の駆除、拡大防止に向け、当会が中心になって自治体や民間団体や研究者等とともに行動しています。

## 9. 三朝温泉かじか蛙保存研究会

「かじか蛙の鳴き声に耳を傾け、その美しい音色を愛し、多くの生命を育んできた清流を次の世代に引き継ぐことを願い、川を守り育てていく」ことを目的とし、毎年10月頃には地元の小学生などとともに三朝町内の森林で植樹を行い、自然の偉大さや自然を守る活動の大切さを体験しているほか、毎年6月には「かじか蛙の声を聞く夕べ」を主催し、三朝町を訪れる多くの方に感動を与えています。

### ○かじか蛙の里を守る植樹活動（毎年10月）

毎年三徳川の上流でコナラ、イヌシデ、アカシデ、クヌギ等の落葉樹を植樹する活動を行っているほか、今までに植樹した場所の手入れを行っています。

### ○かじか蛙の声を聞く夕べ（毎年6月）

三朝温泉街にある三徳川恋谷橋付近で、カジカガエルについて説明を聞きながら、美しい鳴き声を楽しんでいただきます。



©三朝温泉かじか蛙保存研究会

## 10. 希少野生植物保護の会（RD）

県が定める希少野生動植物の保護管理事業計画に基づく希少野生植物の保護と、鳥取県の自然生態系の保全と野生植物の多様性の再生を図るための調査研究を行っています。

### ○サクラソウの継続的な調査と保護活動

日野郡内のサクラソウ自生地4か所について、2003年から保全と調査を継続して実施し、調査報告書にまとめています。そのデータは学術的にも貴重なものとなっています。

### ○植生調査会（観察会）と希少植物の保護（毎月1回開催）

鳥取県西部または隣県に赴き植生調査を実施、確認した植物を報告書にまとめています。植生調査会と併せて日南町に自生する希少種のドクゼリ、キセワタ、サンベサワアザミを保護する活動を行っています。

### ○地元保護団体との交流（毎年5月）

サクラソウの開花期に日南町「福栄サクラソウを守る会」と共に、中央大学の鷺谷いづみ教授（保全生態学）をアドバイザーに迎え、サクラソウの保護について話し合う交流を続けています。



©希少野生植物保護の会

## 11.NPO 法人 未来守りネットワーク

日野川・法勝川水系はじめ、西部地域の用水路などで年4～6回絶滅危惧種類の魚介類の調査・保護活動を行っています。また2019年度から2年計画で行われる尚徳地域でのビオトープ（法勝寺川水辺の楽校）推進委員をはじめ、日野川漁協と連携した川づくりなどを行っています。

### ○環境教育

伯耆町の各小学校で、各河川の魚介類の生息状況や種類などを学ぶ環境教育を行っています。

### ○連携

各河川改修工事において、各行政機関と連携・検討して魚介類が生息できる環境づくりなどを提案しています。

### ○プロジェクト

国・各県・市町村（斐伊川水系・飯梨川水系・大山・日野川地域）で進められている『生態系ネットワーク大型水鳥類と共に生きる流域づくり』の委員（地域づくり委員会）として提言・助言などを行っています。また各団体と連携してこのプロジェクトのPRイベントに参加しています。



## 12. もりまきフィールドネットワーク

自然観察指導員の講習会を受講後、この名称を使用して活動を開始しました。現在は南部町を中心とした鳥取県西部をフィールドに、野生動植物、食、農林業等について、科学的知見に基づく(1)教育・普及活動、(2)調査・研究、(3)保全・保護・管理活動、(4)資料保管管理等を行っています。

2016年には南部町「祐生出会いの館」にて特別展『里山はワンダーランド』を開催し、標本や写真パネルの展示等をさせて頂きました。

### ○定期ガイドウォークの実施（毎月最終土曜日）

南部町内で20コース以上の散策探検地をプログラム化しています。ブッポウソウ、サンインサンショウウオ、水辺の生き物探し、山菜摘みなどのほか、「満月の里山探検」、「ホタルブクロをゲンジボタルで灯す会」等、夜間企画も不定期に実施しています。

### ○『釣って食べて希少種保全！定期ザリガニ釣り』（2009年～）

2017年までに南部町内でアメリカザリガニ約3万匹を捕獲、その有効活用を通して、外来生物に関わる教育普及活動を実施しています。

### ○『さとやま茶話会』（2018年）

里地里山における自然環境と人間生活の折り合いや、生物多様性に関わるテーマでのサイエンスカフェを企画・開催しています。



### 13. とっとり・なんぶ手自然ネットワーク (サトノテ)

団体名の「手自然」は、糸井重里氏がテレビ番組で使用した言葉です。

ブッポウソウやオオサンショウウオなど希少な野生生物と、それを支える町内の豊かな生態系の重要性に気づいた有志が、里山の生き物たちの賑わいを次世代にも残していくべく、町内の生き物の調査や保全活動、普及啓発、野外体験企画などを行っています。



©とっとり・なんぶ手自然ネットワーク

#### ○『サトノテ塾』・『サトノテ企画』(2009年～)

里山の野生生物をテーマにした屋外企画を開催しています。また、マイ醤油作り、伯州綿栽培体験、富有柿畑散策体験等の農業プログラムの実施も重ねています。

#### ○『里山 de サイエンスカフェ』(2017年～)

サンショウウオ類、ヘビ類、鳥類、水草、動物行動学など、各分野の専門家をお招きして町内の美味しい一品を味わいながら、自然科学を楽しむ企画です。

#### ○外来生物個体管理活動(2009年～)

アメリカザリガニを釣って食べて希少種保全という導入で、外来生物に関する普及啓発活動を実施しています。また、2019年からはヒメボタル生息域のオオキンケイギク駆除活動を実施しています。

### 14. NPO 法人なんぶ里山デザイン機構

当機構は、空き家を活用した移住定住促進事業、町民・移住希望者などへの無料職業紹介、ふるさと納税受託事業を中心に「交流人口の増加」と「生涯活躍のまちづくり」に取り組んでいます。

また、南部町の里地里山を活かした体験イベントを『なんぶ里山デザイン大学』として開催しており、他市町村からの参加者も多く、交流人口の増加に繋がっています。



©NPO 法人なんぶ里山デザイン機構

#### ○『なんぶ里山デザイン大学』里山暮らす

里山の魅力を知る人を講師に招き、「里山ならではの」が体験できる講座を開催しています。

(一例) 山菜を採って描く(ペン画)、養蜂体験、野草染、地元食材を活かした季節のお野菜料理づくり

#### ○『なんぶ里山デザイン大学』子育て暮らす(親子(0歳～小学3年生)対象)

自然体験や里山に興味を持つ親子を対象に開催しています。

(一例) 梅シロップづくり、彼岸おはぎ作り、味噌作り、野草クッキング

## 15. なんぶハンザキ調査隊

2016年、2017年の岡田純氏による南部町東長田川オオサンショウウオ定期調査を機に、町内外の有志が集まり、人工巢穴のメンテナンス作業や生息地の実態把握調査を重ねてきました。2017年開催の「日本オオサンショウウオの会南部町大会」以降、町の文化財担当課を含め活動と情報交換を活発に行っています。



オオサンショウウオに特化した南部町初の有志団体として、他地域の活動団体とのネットワークを活用し、オオサンショウウオとの良好な関係を模索していくことを目的としています。

### ○人工巢穴メンテナンス作業（2017年～）

2012年に設置された東長田川水系の人工巢穴において、2018年マンホール式人工巢穴での県内初の産卵を確認、保全保護活動が進むも台風による増水で卵塊が消失。翌2019年に2度目の産卵と初孵化を確認、管理作業を続け12月に初の巣立ちを確認しました。

### ○オオサンショウウオ観察会サポート（2012年～）

南部町の各団体・組織が主催するオオサンショウウオ関連企画をサポートしています。

### ○オオサンショウウオ生息地調査

南部町のオオサンショウウオの実態把握のため、既知の生息地から未確認河川まで情報の収集を行っています。

## 16. 福栄さくらそうを守る会

当会はサクラソウだけでなく、他の種も保全対象として保護・増殖をしています。保護・増殖には、その生育環境を対象とした保全を行い、人間の手では増殖をしていません。



春・夏・秋に保全・保護・増殖のための作業を行い、観察会は特別に設けていませんが、鷲谷いづみ先生（保全生態学）を招いての交流会を毎年続けています。

### ○盗掘防止監視活動

開花期に当番制でガイドも兼ねて実施しています。観察木道も設置しているので春の点検も行っています。

### ○草刈り・雑草持ち出し作業

11月に来春の開花の手助けのための草刈り作業をしています。刈り取った草はイノシシ害があるため、電気柵外に持ち出します。

## 17. 多里はんざけを守る会

国の特別天然記念物であるオオサンショウウオのみならず、その生息する環境も含めた保全・保護を目的として、多里地区で『まなぶこと』『楽しむこと』を大切にしながら、専門家と住民が一緒に活動しています。

### ○人工巣穴設置と県内初の産卵・孵化・巣立ち

2012年に、オオサンショウウオの保全上、最優先課題である産卵巣穴を創出し、利用状況をモニタリングしながら、オオサンショウウオの保護、河川環境保全について地域内外の関心を高め、地域の自然環境保全を推進したいという目的で人工巣穴を設置しました。

メンテナンスを繰り返しながら観察を続け、2016年に県下で初めてとなる人工巣穴での産卵・孵化、翌年の早春には巣立ちを確認しました。

### ○『はんざけよもやま話』

生態紹介の展示室作成や毎年の河川清掃や観察学習会などの報告会を開催しています。会には、町内外より大人から子どもまで参加し、この地におけるオオサンショウウオの棲む環境の現状や保全・保護の大切さについて事例を交えながら学習しています。



©多里はんざけを守る会

## 18. 山上ヒメボタル保護の会

### 【福万来ホタル乃国】

全長1.5kmの間を、途切れることなくゲンジボタルとヒメボタルを觀賞しながら歩くことができます。ゲンジボタルとヒメボタルをこれほどの規模で広く鑑賞できる場所は他に例がないといわれています。

### ○環境整備作業（主に6月）

ホタル觀賞客の受け入れに合わせ、觀賞道や駐車場の整備、県道沿いの草刈、遮光ネットの設置を行っています。活動は、觀賞客の受け入れと併せて、山上地域から延べ200名のボランティアスタッフ(H30から有償化)が参加して行っています。

### ○ホタル觀賞客受入（6月下旬～7月上旬）

年間4,500人(R1実績)の觀賞客を受け入れています。ホタル保護のための觀賞ルールを作るとともに、ホタルのいる自然環境の大切さ、素晴らしさ、神秘性、偉大さを訴えるため、ブログやパンフレット等により觀賞者へ情報発信を行っています。

### ○ホタルの生態調査（通年 にちなんエコツーリズム推進協議会と協力）

令和元年より「にちなんエコツーリズム推進協議会」を町内の複数団体で設立し、ホタル保護のために必要な調査を開始しました。

### ○その他：ホタルネット大山への加入、全国ホタル研究大会（分科会）の誘致(H28)・参加



©山上ヒメボタル保護の会

## 19. 奥大山江府町ホタルの会

「江府町の自然を守る会」として2002年度からせせらぎ公園内のビオトープの維持、管理、改修を始め、保育園・小学校の子どもたちを対象に夏と秋のビオトープ観察会を行う等、地域を活用した自然教室と体験イベントを行ってきました。

公園内の一部水路改修の後にホタルの飛翔数が増えたことを受け、本格的にホタル生育環境維持と町内の調査を始め、2014年「ホタルの全国大会」誘致を機に組織名称を変更し現在に至っています。



©奥大山江府町ホタルの会

### ○ホタル観察会（2010年～・6～7月）

「せせらぎ公園」にて保育園・小学校の親子観察会を、県立大山自然歴史館との共催で一般対象のホタル観察会を実施し、自然の素晴らしさ、環境保護の大切さを啓発しています。また、町内のヒメボタル生息地において子ども会対象の観察会も実施しています。

### ○ホタルの生態及び環境の調査研究（2012～2017年）

大山環状道路沿いのヒメボタルの発生を中心に、江府町内におけるゲンジボタル、ヘイケボタル、ヒメボタルの調査を実施し、「全国ホタル大会鳥取県米子大会」において発表報告を行いました。

### ○ゲンジボタルの幼虫の上陸数及び飛翔数の調査

ゲンジボタルを中心に、幼虫の上陸数の調査、飛翔数の調査を実施、観察会の時期の決定等に役立てるとともに気象環境の変動のデータとしても活用しています。

## 企業の取り組み

### サントリー「天然水の森」～水と生命（いのち）の未来のために

サントリーの事業活動は、水や農作物などの自然の恵みに支えられています。

そのため良質な地下水を将来にわたって保全する事に大きな責任があると考え、水源涵養機能と生物多様性の向上を目標に 2003 年「天然水の森」活動を熊本でスタートさせました。現在では全国 15 都府県 21 箇所・約 12,000ha まで拡大し、目標としてきた「国内工場で汲み上げる地下水量の 2 倍以上の水を涵養」を達成しています。整備活動にあたっては、水文学や土壌学、植物学などさまざまな分野の研究者と連携し、科学的な根拠に基づいた調査や研究を元にその場所に適した計画や目標を定めて推進しています。

鳥取県では 2007 年に最初の「天然水の森」を設定。現在では日野郡江府町で操業している「サントリー天然水奥大山ブナの森工場」周辺で 7 箇所、約 495ha の森林において人工林間伐、広葉樹林再生などの整備活動を実施しています。

水や自然の恵みをもたらす地球環境を未来へ引き継いでいくために、「天然水の森」活動のほかにも、豊かな生態系の象徴である野鳥を保護する「愛鳥活動」を展開。『ワシ・タカ子育て支援プロジェクト』などで成果を上げています。また、水の大切さを未来を担う子供たちに伝えるために、「森と水の学校」と「出張授業」の二つからなる次世代環境教育『水育』を鳥取県でも実施し、2019 年までに 9 千人超の方々が参加されました。

※サントリーの環境活動 (<https://www.suntory.co.jp/eco/?ke=hd>)



©サントリーホールディングス(株)

### イオンのサステナビリティ（持続可能性）

イオン株式会社では、『イオン サステナビリティ基本方針』を策定し、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」という基本理念のもと、「持続可能な社会の実現」と「グループの成長」の両立を目指しています。この取り組みにあたっては、「環境」「社会」の両側面で、グローバルに考え、それぞれの地域に根ざした活動を、多くのステークホルダーの皆さまとともに積極的に推進しています。

環境面の課題について、その一つに生物多様性の保全をあげており、この課題解決のために『イオン生物多様性方針』を策定しています。この方針では、事業活動全体における、



鳥取砂丘の除草作業 ©TP

生態系への影響を把握し、お客さまや行政、NGO などステークホルダーの皆さまと連携しながら、事業活動が生態系に与える影響の低減と生物多様性の保全活動を積極的に推進しています。

当社ではこの方針に沿って、平成 17 年より、市内 3 店舗による砂丘ボランティア除草の継続実施や、平成 23 年には鳥取県と締結した包括連携協定に従い、生物多様性の保全に関する活動を実施することとし、鳥取砂丘未来会議が実施する鳥取砂丘のボランティア除草に対して、平成 24 年から『山陰海岸ジオパーク鳥取砂丘 WAON カード』の利用額の一部を活動資金として寄付して、鳥取砂丘の環境整備を進めています。

※イオン サステナビリティ基本方針 (<https://www.aeon.info/sustainability/guidelines/>)

※イオン生物多様性方針 (<https://www.aeon.info/sustainability/biodiversity/>)

※国連生物多様性 10 年日本委員会 認定連携事業者の紹介 (<http://undb.jp/authorization/1789/>)

## 環境マネジメントシステム (ISO14001 規格)

ISO とは International Organization for Standardization (国際標準化機構) の略称です。ISO の主な活動は国際的に通用する規格を制定することであり、ISO が制定した規格を ISO 規格といいます。ISO 規格は、製品やサービスの国際的な基準の他に、組織の品質活動や環境活動を管理するための仕組み (マネジメントシステム) についても規格が制定されています。これらは「マネジメントシステム規格」と呼ばれ、品質マネジメントシステム (ISO 9001) や環境マネジメントシステム (ISO 14001) などの規格が該当します。つまり、「ISO マネジメントシステム規格」とは、「ISO が策定したマネジメントシステムに関する規格」ということになります。

ISO14001 については、組織が環境マネジメントシステム (EMS: Environmental Management System)<sup>※1</sup> を確立し、文書化し、実施し、かつ、維持すること。また、その環境マネジメントシステムの有効性を継続的に改善するために要求される規格です。

鳥取県では 59 社<sup>※2</sup> (2020(R2)年 2 月 28 日現在) の登録があります。

(参考) 一般財団法人 日本品質保証機構 (JQA) HP <https://www.jqa.jp/>

※1 組織や事業者が、その運営や経営の中で自主的に環境保全に関する取組を進めるにあたり、環境に関する方針や目標を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくための工場や事業所内の体制・手続き等の仕組みのこと。(環境省 HP から抜粋)

※2 公益財団法人 日本適合性認定協会 HP からの検索

<https://www.jab.or.jp/system/iso/search/>

## 鳥取県版環境管理システム（愛称『TEAS（テス）』）

県内の中小企業等の環境配慮活動への取り組みを容易にするため、県が一定の基準を設け、環境配慮活動を審査登録し公表する鳥取県独自の制度です。多くの企業、学校、県民の方々に環境への配慮に取り組んでいただいています。

表 資料- 1 鳥取県版環境管理システム規格の概要

種別	I種規格	II種規格	III種規格
対象組織	高度な環境管理を行う県内の企業等組織	I種以外の企業等組織及び高等学校	店舗・小規模事業所、小中学校等、家庭・地域
規格の内容	国際規格 ISO14001 と同程度の規格で、ISO への意向を目指す企業等に有効（要求事項 17 項目）	ほとんどの組織が環境配慮活動を行えることを考慮（要求事項 11 項目（学校 9 項目））	環境管理システムを体験し、環境問題への理解を深めることを考慮（要求事項 7 項目）
審査機関	県の認定した審査機関	県の認定した審査機関	鳥取県
審査経費	有料	有料	無料
登録機関	鳥取県（無料）	鳥取県（無料）	鳥取県（無料）
有効期限	1 期 3 年 更新可 1 年ごとに審査	1 期 3 年 更新可 1 年ごとに審査	1 期 3 年 更新可 3 年ごとに更新審査
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員の環境に対する意識改革</li> <li>・省資源、省エネルギー活動によるコスト削減</li> <li>・事業活動に伴う環境負荷の低減</li> <li>・権限や責任が明確化され業務改善につながる</li> <li>・企業のイメージアップ</li> <li>・鳥取県の建設業格付で点数を加算</li> <li>・鳥取県の物品調達時に見積・入札参加機会の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員の環境に対する意識改革</li> <li>・省資源、省エネルギー活動によるコスト削減</li> <li>・事業活動に伴う環境負荷の低減</li> <li>・権限や責任が明確化され業務改善につながる</li> <li>・企業のイメージアップ</li> <li>・鳥取県の物品調達時に見積・入札参加機会の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒、教職員、従業員等の環境に対する意識改革</li> <li>・省資源、省エネルギー活動によるコスト削減</li> <li>・事業活動等に伴う環境負荷の低減</li> </ul>

鳥取県 HP <https://www.pref.tottori.lg.jp/teas/>

## 市町村の取り組み

### 1. 智頭町

#### ○森林セラピー

【目的】 森の持つ癒やし効果に着目し、住民の健康増進、都市住民との相互交流を進める

【時期】 通年

【規模】 利用者 634 名(2018(H30)年度)

【場所】 町内全域

【運営】 町がセラピーロードを整備、智頭町森林セラピー推進協議会が運営

【協働団体】 智頭町森林セラピー推進協議会

〈連絡先〉 智頭町 山村再生課 電話 0858-75-3117

### 2. 湯梨浜町

#### ○愛らぶ東郷池イベント（東郷池の水質浄化を進める会）

【目的】 「東郷池の環境保全を含め、より親しみやすく身近なものとするため」

令和元年度は東郷池に飛来する野鳥の観察を実施（体験型）

【時期】 イベントによって時期は不定期だが、2019(R1)年度は12月に実施

【規模】 参加者 60 名(R1 年)、(参考 H30 年：280 名)

【場所】 東郷池周辺（水明荘が主会場）(参考 H30 年：アロハホール)

【運営】 町と県が共催し、日頃から東郷池の保全活動に携わっている方の協力により実施

【協働団体】 日本野鳥の会鳥取県支部のメンバー

〈連絡先〉 湯梨浜町 町民課 電話 0858-35-5310

### 3. 北栄町

#### ○森外来種駆除の啓発

【目的】 外来種（オオキンケイギク）の駆除

【時期】 4 月下旬から 7 月

【方法】 町ホームページ、町無線放送、町広報誌、T C C（ケーブルテレビ）文字放送を利用して、町民の方へオオキンケイギク駆除の広報を行った

〈連絡先〉 北栄町 環境エネルギー課 電話 0858-37-3116

## 4. 日南町

### ○日南町総合計画で予定する事業等

- ・全国初！排出ゼロの道の駅にちなん日野川の郷
- ・緩やかな人口減少を現実するコンパクトビレッジ構想
- ・F S C 森林認証取得で責任ある森林管理で持続可能な森林経営を
- ・町有林J-クレジット制度運用で水源涵養と森林育成を
- ・企業のC S R活動の誘致による森林育成活動の充実
- ・S D G s 環境フォーラム、各種学会等の開催による啓発

### ○オオサンショウウオの住民票づくり

マイクロチップによるオオサンショウウオの個体登録事業を、鳥取県日野県土整備局と連携しながら実施しました。

### ○日南町希少植物図鑑の作成

日南町に生育する希少な植物を町民に広く知ってもらうことを目的に作成しました。

〈連絡先〉日南町 企画課・農林課・住民課・教育課 電話 0859-82-1111

# 鳥取県の取り組み

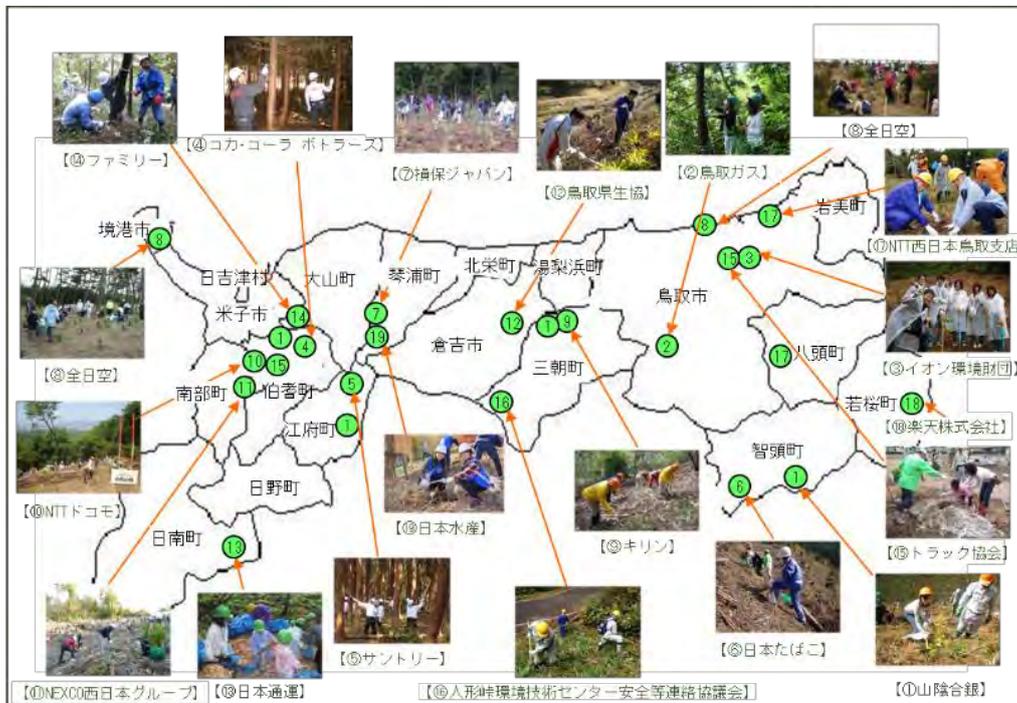
## とっとり共生の森

企業等の環境貢献意識の高まりを背景に、森林環境保全活動が増加傾向にあります。鳥取県では市町村と連携して企業等と森林所有者との架け橋となり、地元との調整や体験型社員研修の企画提案、企業等の取組のPR等を行い、とっとり共生の森を推進しています。

(参考) 鳥取県 HP <https://www.pref.tottori.lg.jp/100905.htm>



図 資料- 1 『とっとり共生の森』のしくみ



活動中の団体：19 企業・団体、 25 箇所、 面積 492.3ha (2019(H31)年 4月 1日現在)

図 資料- 2 活動中の『とっとり共生の森』

## とっとり共生の里

鳥取県では中山間地域の農村と社会貢献に前向きな企業のマッチングにより、農村と企業の双方にメリットがある持続的な資源保全活動や営農支援、加工品づくりを通じた6次産業化などの取組を支援しています。

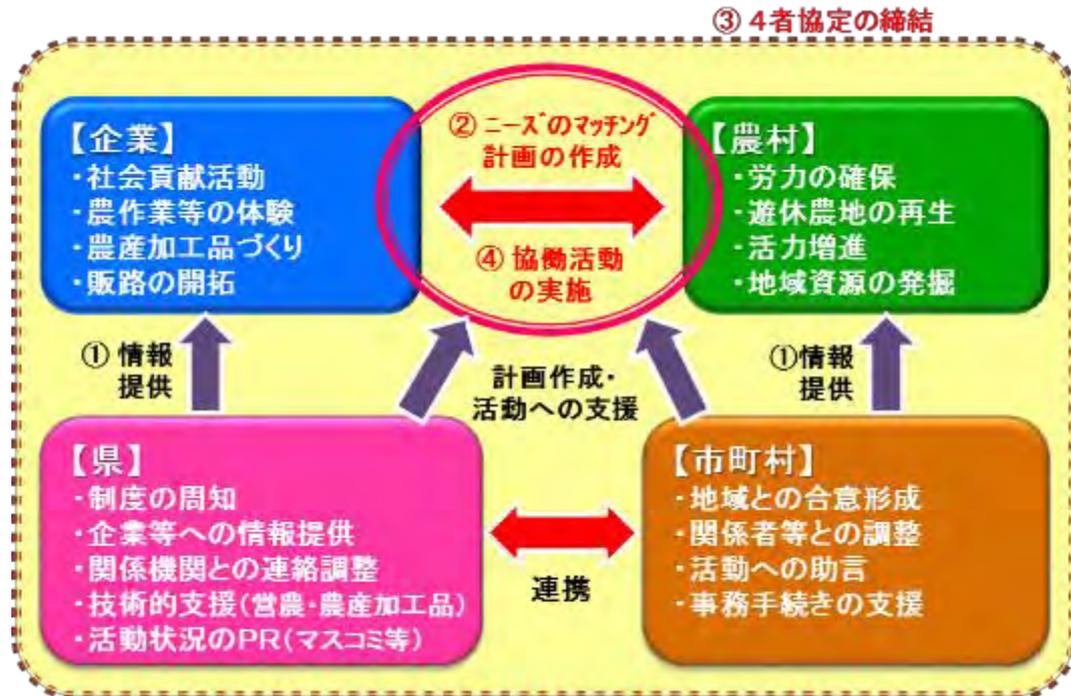


図 資料-3 『とっとり共生の里』のイメージ

表 資料-2 『とっとり共生の里』 協定地区

※2019(R1)年 12月 25日現在

地区名	市町名	協定締結時期	協定企業名等
船岡地区	八頭町	H28年3月	鳥取県生活協同組合ほか
余戸地区	鳥取市佐治町	H27年3月	旺方トレーディング
小船地区	若桜町	H27年3月	因幡地区郵便局長会
五月田地区	智頭町	H27年3月	鳥取銀行
菅福地区	日野町	H27年8月	伯耆地区郵便局長会
御机地区	江府町	H28年7月	サントリーホールディングス
東小鹿地区	三朝町	H29年3月	東京海上日動火災保険
宮田地区	日南町	H29年5月	損害保険ジャパン日本興亜
会下地区	鳥取市気高町	H29年7月	三井住友海上火災保険
東郷地区	鳥取市	H29年9月	山陰酸素グループ

## 鳥取県立大山オオタカの森

鳥取県立大山オオタカの森は大山の麓、西伯郡大山町豊房にあります。この地では、過去に民間会社によるリゾート開発が計画されましたが、簡易水道水源地であり、またオオタカの生息地であることが判明したことなどにより、その予定地であった 104.5ha を 2001(H13)年度に鳥取県と大山町が購入し、2004(H16)年 4 月に「鳥取県立大山オオタカの森の保全に関する条例」（鳥取県条例）を制定しました。



これまで鳥取県は次のような管理を行いオオタカの生息環境の整備を行っています。

### <2006(H18)年から 2010 年(H22)年度>

- オオタカの飛翔空間の確保のため、アカマツ（以下 マツ）林の下層の広葉樹を除伐
- 営巣木となるマツ大径木育成のため、マツの間伐を実施

### <2011(H23)年から 2013(H25)年度>

- 生態系調査を実施し、今後の管理方法等を検討

### <2014(H26)年度～>

- 営巣に適したマツ大径木やえさの狩場を安定的に供給・維持するため、区域内のマツ林齢平準化の作業を実施
  - ・マツ林の天然下種更新（更新伐、保育管理）
  - ・マツの更新保育状況のモニタリング調査

### <その他の取り組み>

- マツクイムシ被害の対策（毎年）
- 野鳥観察会の実施
- オオタカの森保護員による保全活動

## 長距離自然歩道

長距離自然歩道は、国土を縦断、横断又は循環し、多くの人が四季を通じて手軽に楽しく、かつ安全に国土の優れた風景地等を歩くことにより、沿線の豊かな自然環境や自然景観、さらには歴史・文化に触れ、国土や風土を再認識し、併せて自然保護に対する意識を高めるために環境省が計画し、環境省と都道府県及び市町村が整備したものです。

1970(S45)年度の東海自然歩道以降、九州、中国、四国、首都圏、東北、中部北陸、近畿と順次整備が進められています。このうち、鳥取県内には、中国自然歩道と近畿自然歩道があります。

(参考) 鳥取県 HP <https://www.pref.tottori.lg.jp/45320.htm>



図 IV-1 鳥取県内の長距離自然歩道

### ○中国自然歩道

中国自然歩道は、中国地方を一周する総延長約 2,072km の長距離自然歩道です。このうち鳥取県内のコースは、鳥根県境から境港市に入り、弓ヶ浜半島、大山、倉吉打吹公園、三朝町三徳山、鳥取市鹿野町鷲峰山、鳥取砂丘、鳥取市久松山、鳥取市国府町稲葉山、扇ノ山、智頭町芦津等を経由し、西粟倉村の若杉峠から岡山県に至る区間で延長は 323.8km です。

(参考) 鳥取県 HP <https://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=81294>

### ○近畿自然歩道

近畿自然歩道は、2府7県にまたがる総延長約 3,258km の長距離自然歩道です。このうち鳥取県内のコースは、県の東端である陸上岬を起点とし、駈馳山を終点とする延長 16.5km の区間で、「山陰の松島」と賞される浦富海岸を満喫することができます。ここでは、日本海の荒波と風雪によって侵食された断崖絶壁、洞門、奇岩等の雄大な景観が、済みきった海水や岬に囲まれた砂浜との見事なコントラストを見せてくれます。

(参考) 鳥取県 HP <https://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=96970>

## 県内施設

	団体名	所在地	ホームページ
1	鳥取県立博物館	鳥取市	(URL) <a href="https://www.pref.tottori.lg.jp/museum/">https://www.pref.tottori.lg.jp/museum/</a>
2	山陰海岸国立公園 鳥取砂丘ビジターセンター	鳥取市	(URL) <a href="https://www.sakyu-vc.com/jp/">https://www.sakyu-vc.com/jp/</a>
3	とっとり賀露 かにっこ館	鳥取市	(URL) <a href="https://www.kanikko.jp/">https://www.kanikko.jp/</a>
4	森林公園 とっとり出合いの森	鳥取市	(URL) <a href="http://www.deainomori.jp/index.php">http://www.deainomori.jp/index.php</a>
5	山陰海岸ジオパーク 海と大地の自然館	岩美町	(URL) <a href="https://www.pref.tottori.lg.jp/sanin-geopark/">https://www.pref.tottori.lg.jp/sanin-geopark/</a>
6	氷ノ山自然ふれあい館 響の森	若桜町	(URL) <a href="https://www.hibikinomori.gr.jp/">https://www.hibikinomori.gr.jp/</a>
7	八東ふるりの森	八頭町	(URL) <a href="http://yazukanko.jp/eating_lodging/camp/furusatonomori/">http://yazukanko.jp/eating_lodging/camp/furusatonomori/</a> (八頭町観光協会)
8	米子水鳥公園	米子市	(URL) <a href="http://www.yonago-mizutori.com/">http://www.yonago-mizutori.com/</a>
9	とっとり花回廊	南部町	(URL) <a href="http://www.tottorihanakairou.or.jp/">http://www.tottorihanakairou.or.jp/</a>
10	大山自然歴史館	大山町	(URL) <a href="http://daisen-museum.jp/">http://daisen-museum.jp/</a>

### 1. 鳥取県立博物館

鳥取県立博物館は、県民の教育及び文化の発展に寄与するための施設として久松山下鳥取城跡内に設立され、1972(S47)年10月1日に開館した総合博物館です。

常設展示には、自然、歴史・民俗、美術の3つの展示室があります。自然展示室では、鳥取県の大地のなりたちから、鳥取砂丘や大山の生物、そしてオオサンショウウオをはじめとする貴重な生きものまで、多様な自然のすがたを紹介しています。

また、特定のテーマに基づいた企画展を毎年数回開催するほか、移動博物館、講演会、講座、観察会などの教育普及活動を実施しています。さらに、展示の解説書、学芸員などの研究成果を報告する『鳥取県立博物館研究報告』、普及広報誌である『鳥取県立博物館ニュース』などを出版しています。



©鳥取県立博物館

## 2. 山陰海岸国立公園 鳥取砂丘ビジターセンター

鳥取砂丘ビジターセンターは、鳥取砂丘が有する魅力をあますところなく伝える展示や映像がたくさんあります。観光案内にも対応するほか、砂丘をよく知るガイドが常駐している今までにない施設です。ここでは、鳥取砂丘への関心と理解を深め、砂丘を歩く時間＝フィールドツアーへの期待感を高めていただくことができます。



○展示（ドームシアター『すなくら』・大地のゾーン・いきもののゾーン・人のゾーン）

刻々と変化する砂丘の迫力ある映像や、砂丘に生きる動植物の標本やはく製、砂丘の成り立ち、人と砂丘の関わりなど、鳥取砂丘を多面的に知ることができます。

○ガイドツアー（室内ガイド：無料・砂丘ガイド：有料（予約制））

所要30分から120分までの様々なガイドツアープログラムを用意しています。ガイドの解説を聞くのと聞かないのとでは砂丘の楽しみ方が全く変わります。

## 3. とっとり賀露 かにっこ館

かにっこ館は「見て」「ふれて」「体験できる」カニが主役の小さな水族館です。松葉ガニが住む深海の世界を体験したり、世界一大きくなるタカアシガニなど多くの生きたカニの展示のほか、水槽で海の生き物とふれあうことができます。また、多数のイベントも開催しています。



○ワークショップ

海洋の生物にちなんだ素材などを使用した「ものづくり体験」を実施しています。幼児向けから大人向けまでさまざまな企画を用意しています。

○移動水族館『出前かにっこ館』

水生生物に関する体験学習の機会を提供するとともに、水生生物の魅力を発信するため、体験型の移動水族館である「出前かにっこ館」を実施しています。

## 4. 森林公園 とっとり出会いの森

とっとり出会いの森は鳥取市桂見に 1999(H11)年に開園した森林公園です。約 70 ヘクタールの園内には、様々なコースの林内散策路、県産材を使用したドーム状の管理棟や展示館、約 1.4 ヘクタールの芝生広場「出会いの広場」などを整備し、四季折々の美しい自然の中で森林とのふれあいを楽しむことができます。



### ○展示館

3つのドームの一つ展示館では、森林のジオラマや野生生物の標本などを展示し、鳥取の森林の仕組みをわかりやすく紹介しています。

### ○体験イベントの開催

タケノコ掘り、シイタケの植菌や収穫体験など、森林の環境と恵みを体験できるイベントを開催しています。また、木材や木の実などを用いた、ものづくりワークショップを開催しています。

## 5. 山陰海岸ジオパーク 海と大地の自然館

山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館は、『山陰海岸ジオパーク』の魅力さまざまな資料や映像で紹介しています。体験学習コーナーでは山陰海岸の砂や生きものを観察することができ、さまざまな学習相談にもご利用いただけます。また、年間を通して、野外観察会や自然講座なども行っています。



### ○イベントの開催

ジオパークならではの自然科学に関する体験型イベントを開催しています。海岸や磯での野外観察会、天体観察会、ジオハイキング、室内での体験やワークショップなど幅広い年齢層に楽しんでいただいています。

### ○ニュースレター「Geofield (ジオフィールド)」(月1回発行)

海と大地の自然館の最新情報や、山陰海岸ジオパークを広く知っていただけるよう、学芸員・専門員によるコラムを掲載しています。

## 6. 氷ノ山自然ふれあい館 響の森

氷ノ山後山那岐山国定公園のビジターセンター、自然環境教育の推進施設として一般財団法人鳥取県観光事業団が指定管理・運営しています。

館内では日本最大級のジオラマ等の展示により氷ノ山の豊かな自然を紹介、野外では登山や自然観察等の野外活動、また自然を素材とした創作体験等の自然体験プログラムを実施するなど、自然の魅力発信や保護意識の啓発に取り組んでいます。



©氷ノ山自然ふれあい館 響の森

### ○親子自然研究クラブ（月1回程度開催）

小中学生とその保護者を対象に、定期的に響の森周辺で自然の観察会等を実施し、自然のを知る・自然の不思議を探求するなどの活動を行っています。

### ○森のようちえん（月1回程度開催）

幼児や小学生低学年とその家族を対象に、響の森周辺のお散歩や自然物を用いた遊び等を通して、親子で自然に親しむ活動を行っています。

### ○野外活動（登山、シャワークライミング、雪上ハイキング）

四季折々の氷ノ山の自然の様子を楽しむとともに、自然の仕組みを知ったり、不思議さを感じたりします。少人数向けのエコツアーも実施しています。

## 7. 八東ふる里の森

ブナの群生林に囲まれた、春は新緑、夏は避暑、秋には紅葉、きのこ採取など、自然にふれあえる、八頭町営のレクリエーション施設です。バンガローやキャンプ場、遊歩道などのアウトドア施設も充実しており、キャンプやバーベキューを楽しむことができます。



©八頭町観光協会

コノハズク、アカショウビンなどの希少な野鳥が観察できる森として全国的に有名で、「野鳥カメラマン憧れの地」「奇跡の森」とも言われ、全国から多くのバードウォッチャーが来園しています。

観察・撮影においては、人が野鳥に近づきすぎないようにルールを設定しています。

その他、溪流遊びやツリーイングというロープを使った木登り体験も人気で、木と人の関わりから、自然とのつながりを感じることができます。

### ○八東ふる里の森イベント（毎年7月の連休3日間）

ほたる鑑賞や植樹祭、きのこ鑑賞会やヤマメのつかみ取りなど、自然豊かなキャンプ場ならではのイベントが楽しめます。他にも竹とんぼ作りなどの体験イベントや、地元特産品のバザーなど楽しい企画が盛りだくさんです。

## 8. 米子水鳥公園

米子水鳥公園は中海の東岸に位置し、山陰屈指の野鳥の生息地・観察スポットです。中海は平成17年の第9回ラムサール湿地条約締約国会議において重要湿地として条約登録され、公園の約28haの水鳥の保護区では、コハクチョウをはじめ、天然記念物のマガンやヒシクイなど、毎年約130種類の野鳥が確認されています。

当初農林水産省の進める干拓事業対象地でしたが、工事途中の湿地帯に水鳥が集まりました。この湿地を水鳥のために残そうと市民運動が高まりました。その結果、米子市が干拓地を買い取り保護区としたのが始まりです。現在では、鳥類や自然に関する国際交流、調査・研究に加え、環境教育活動や、ボランティアの環境管理への参画など市民参加型の取組も多く行われています。

○子どもラムサールクラブ（小学生対象 年間活動 毎月第2週日曜日）

子どもラムサールクラブは、湿地生態系を楽しく観察する体験を通じて、生きものを好きになり、生きものが暮らす湿地を大切にする人材の育成を目指しています。

○米子水鳥公園ジュニア・レンジャークラブ（年間活動 毎月第2週日曜日）

米子水鳥公園を自主的にお手伝いする活動で、中海の水質調査、野鳥の生息調査や生息場の復元作業などを行うほか、全国のラムサール地域との交流イベント等の催しへ参加しています。



©中海水鳥国際交流基金財団

## 9. とっとり花回廊

大山の雄大な姿を借景として四季折々の花々が楽しめる日本最大級のフラワーパークで、屋根付きの回廊により雨天時も傘をささずに園内を回ることもできる全天候型の施設です。

地形の起伏や雑木林を活かした広大な園内では、花々を見るだけでなく、美しい自然環境の中、季節の移り変わりを存分に味わうことができます。

○「ふるさとの小径」

ふるさとの小径は雑木林の中にある散策道で、里地里山に自生するカタクリやエビネ、ササユリなどを自生地に近い環境で見ることができます。

○「花・はな・カレッジ」

園芸教室・ワークショップや、季節ごとの自然観察会を通じて、自然とのふれあいをより身近に感じる機会を提供しています。



©とっとり花回廊

○「日本に自生する野生ユリ 15 種」

日本に自生する野生ユリ 15 種を含めた世界のユリを开花時に展示しています。中でもサユリは開園前より敷地内に自生しており、採取した種子から増殖もおこなっています。

○「日南町産のオキナグサ」

今では山野で見ることが稀になったオキナグサを展示しています。日南町に自生していたオキナグサの種子から繁殖した子孫で、トウテイランやヒゴタイ等の絶滅危惧種とともに保護増殖をしています。

## 10. 大山自然歴史館

雄大な大山の北壁を背に建つ大山自然歴史館は、大山寺の入り口、博労座に位置します。

館内には大山の自然や歴史についての写真や模型、剥製などが多く展示されており、大山の誕生から現在までの姿を学ぶことができます。誰でも利用できる資料コーナーには、大山に関する地形地質、動植物、歴史などの多くの図書や写真があります。大山自然歴史館では、大山の自然保護啓



©大山自然歴史館

発のための自然観察会を行なっているほか、歴史・文化講座や展覧会などを開催することで、自然の大切さや大山の自然の豊かさを紹介しています。

○展覧会の開催

国立公園大山とその周辺地域の自然・文化・歴史をテーマに展覧会を開催しています。企画展のほか写真展や作品展、一般から写真や作品を募る公募展など、特別展示を充実しています（冬期以外）。

○自然観察会（定期・不定期）

大山寺周辺を散策しながら地形・地質、野生生物、歴史・人文について解説を行います。春・夏・秋の一ヶ月間毎週開催する定期的自然観察会は予約不要で、観光客などビジターが気軽に参加できる機会となっています。

## 策定に係る経過や検討会等

### ○策定までの活動概要

- 平成27年度 県内自然保護団体や有識者へ聞き取り
- 平成28年度 自然保護団体や有識者と検討会を開催  
国機関や県関係課に説明会を開催
- 平成30年度 自然保護団体や有識者と検討会を開催  
国機関や県関係課に説明会を開催
- 令和元年度 自然保護団体や有識者と検討会を開催（3回）  
国機関や県関係課に説明会を開催  
県内市町村に意見照会  
環境審議会で報告（4名の委員から意見あり）  
常任委員会で報告  
パブリックコメントを実施（県民5名から意見あり）  
とっとり環境推進県民会議で意見交換（1名の参加者から意見あり）

### ○鳥取県生物多様性地域戦略策定検討会 参加団体等

氏名	所属	活動地域	備考
日置 佳之	鳥取大学農学部 教授	全県	学識経験者 全体取り纏め協力
清末 幸久	鳥取県立博物館 主幹学芸員 日本自然保護協会自然観察指導員鳥取連絡会 会長	全県	学識経験者 県東部取り纏め協力
高橋 宏	氷ノ山自然ふれあい館 響の森 館長	東部	
土井 倫子	鳥取環境市民会議 代表		
清末 忠人	鳥取自然に親しむ会 会長		
浜辺 正篤	鳥取自然保護の会 会長		
山本 賢二	氷ノ山ネイチャークラブ 代表		
谷上 正樹	余戸地区ウスイロヒョウモンモドキ保護の会 会長		
中前 雄一郎	東郷池メダカの会 会長		中部
村井 秀歳	オキナグサを守る会 会長		
高野 信夫	東郷池メダカの会 副会長		
田村 昭夫	鳥取昆虫同好会 会長		
長 暉	原オキナグサを守る会		
門木 光明	三朝温泉かじか蛙保存研究会 会長		
塩谷 俊樹	三朝温泉かじか蛙保存研究会 事務局長		
矢田貝 繁明	大山自然歴史館 館長	西部	県西部取り纏め協力
桐原 佳介	公益財団法人中海水鳥国際交流基金財団(米子水鳥公園) 主任指導員		
岡田 純	NPO 法人日本ハンザキ研究所 理事長		
板持 照明	NPO 法人なんぶ里山デザイン機構 事務局長		

氏名	所属	活動地域	備考
土居 克夫	NPO 法人日本野鳥の会鳥取県支部 支部長		
津森 宏	NPO 法人日本野鳥の会鳥取県支部 理事		
奥森 隆夫	NPO 法人未来守りネットワーク 理事長		
有田 秀章	NPO 法人未来守りネットワーク		
神庭 賢一	奥大山江府町ホタルの会 代表		
浜田 幸夫	希少野生植物保護の会 会長		
加藤 邦樹	江府町希少植物保護の会 事務局		
棚木 建明	福栄さくらそうを守る会 会長		
桐原 真希	もりまきフィールドネットワーク 代表		

(H28-R 元年度で1回以上出席された全ての方、取り纏め協力はR元年度)

### ○策定協力者

鳥取大学農学部 教授 鶴崎 展巨  
 鳥取大学農学部 教授 永松 大  
 鳥取環境大学環境学部 教授 小林 朋道

### ○聞き取り協力

群・はなばち  
 日野町オシドリグループ  
 NPO 法人大山・日野川自然の会  
 とっとり・なんぶ手自然ネットワーク (サトノテ)  
 なんぶハンザキ調査隊  
 多里はんざけを守る会  
 山上ヒメボタル保護の会  
 県内市町村

### ○受託コンサルタント

平成27-29年度 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社  
 令和元年度 サンイン技術コンサルタント株式会社

### ○写真提供 (イニシャル掲載者) (掲載順)

YS: 矢田貝繁明、TP: 鳥取県、KH: 國本光紀、OT: 小椋隆、TA: 田村昭夫、  
 NY: 中前雄一郎、NWIEFF: 中海水鳥国際交流基金財団、TT: 徳永年彦、AN: 赤井伸江、  
 YA: 吉田亮

## ○参考文献

- ・鳥取県衛生環境部自然保護課「鳥取県のすぐれた自然」(地形・地質編/植物編/動物編)  
(1993年12月)
- ・鳥取県生活環境部景観自然課「身近な自然と共生する環境づくりの手引き」  
(1999年3月)
- ・鳥取県生活環境部環境政策課「レッドデータブックとっとり－鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物(動物編/植物編)」(2002年3月)
- ・鳥取県生活環境部公園自然課「レッドデータブックとっとり改訂版－鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物」(2012年3月)
- ・環境省「生物多様性地域戦略策定の手引き(改訂版)」(2014年3月)

### 鳥取県生物多様性地域戦略

－人と自然が共生するとっとりを目指して－

令和2年(2020年)3月

鳥取県生活環境部緑豊かな自然課